

# 考え過ぎるよりも「NO」でなければ、 まずは一步踏み出してみよう

坂田敦子 尚綱大学生生活科学部栄養科学科教授

## 免疫の仕組みに興味を持ち、 研究者の道へ

薬学部修士課程の研究テーマは『免疫細胞の蛋白質分解酵素解析』。免疫の仕組みに強い興味を持っていたので、修士修了後は医学部の博士課程へ進みたいと思っていました。ちょうどその時、医学部免疫学教室から助手(現・助教)のお話をいただき、迷わず研究の世界に飛び込みました。

免疫学教室での最初の研究テーマは、免疫細胞のなかでも貧食細胞であるマクロファージの機能解析でした。その後、自己免疫疾患における免疫細胞の関わりについて調べるために、関節リウマチ患者のTリンパ球をいろいろな方法で免疫不全マウスに移入し、ヒトRA(関節リウマチ)に類似した破壊性の関節炎モデルの作製に成功(これは後に製薬会社『化血研』で自己免疫疾患を対象とした創薬開発のきっかけとなりました)。

その後、米国テキサス大学へ留学。帰国後は、免疫学教室での研究を経て、『化血研』で新規創薬の開発に3年携わりました。大学の論文に代わり“特許”というものの重要性をここで学ぶ



米国テキサス大学ヘルスサイエンスセンター(サンアントニオ市)へ留学、恩師Talal教授(前方中央)を囲んで前方左が私(1995年)

ことができ、この経験がさらに産官学連携の仕事につながっていきました。

2001年より『科学技術振興機構』の科学技術コーディネータとして、大学の研究を産業分野へ展開・支援する行政の仕事に就きました。数度の欧米への海外視察は、私にとってこれまでにない広い視野と今後日本が向かうべき研究開発の方向性を与えてくれました。

## まずは一步踏み出してみよう!

研究の魅力は、未知の自由で柔軟な価値観、世界観を描きながら社会貢献ができること。興味とそれを深掘りする行動力があれば、どこまでも追究できる可能性を秘めています。私自身も多くの失敗を重ねながらも、視野や考え方が確実に深まり、少しずつですが独自の価値観や世界観が持てるようになりました。特に若い女性たちには「先入観にとられることなく、考え過ぎるよりもいろいろなチャレンジを」と伝えたいです。「NO(嫌)でなければGO(進め)！」という気持ちで、目の前のチャンスをつかんでいってほしいと思います。



尚綱大学にて卒業研究の学生たちに囲まれて(2011年)



Atsuko SAKATA

薬学部 修士課程 大学教員 企業(研究員) 行政(科学技術コーディネータ) 大学教員

## One day

6:30 起床  
8:30 大学へ  
9:00 就業  
講義、実習、研究、会議など  
19:30 帰宅→家事・夕食  
24:00 就寝

休日には  
庭いじりをして  
リフレッシュ  
しています

◎座右の銘  
今日を大切に生きる  
◎宝もの  
人との絆

## profile

さかたあつこ/熊本大学大学院薬学研究科修士課程修了後、1984年より熊本大学医学部附属免疫医学研究施設生化学部門(現熊本大学医学部免疫学講座)助手として勤務。1995年テキサス大学ヘルスサイエンスセンターへ米国留学、自己免疫疾患とアポトーシスの研究を行う。1998年、(財)化血研嘱託研究員として自己免疫疾患の創薬開発に従事。2001年科学技術振興機構(JST)RSP事業科学技術コーディネータとして産学連携を推進する。2006年より現職。

## アンケート より

Q.これまでに退職を考えたときの理由は?

- 妊娠したため ●育児と仕事の両立が難しいと感じたから
- 第1子を出産直後、子育てに自信がもてなかったから